

御船Aが御船路を完全制覇

町地区対抗駅伝大会

2月21日、第31回御船町地区対抗駅伝大会が行われ、御船地区Aが見事優勝を勝ち取りました。コースは役場前を発着点とした10区間20.8^{km}。出場は7地区から8チームが出場しました。レース序盤から主導権を握ったのは御船地区A。1区・西山文菜選手(12)が先頭でたすきをつなぐと、後続のランナーも安定した走りですぐ2位以下を大きく突き放しにかかります。そんな中、2位争いは御船地区Bと、高木地区が激しく入れ替わる中盤のレース展開。そこに昨年優勝の小坂地区が終盤で猛烈な追い上げをみせます。しかし、2位との差を最大で3分近くひろげた御船地区Aが、先頭を一度も譲ることなく逃げ切る完璧なたすきリレーで完全優勝を果しました。なお、大会成績は次のとおりです(敬称略)。

▼大会成績(優勝チームのみ選手掲載)

①御船A / 1時間11分12秒(西山文菜、高橋満、横山由衣、別城義仁、牟田龍史、金森政貴、米納美菜子、西村信也、尾田充倫、永戸大也)

②小坂 / 1時間11分34秒 ③上野 / 1時間15分33秒

④七滝 / 1時間15分51秒 ⑤高木 / 1時間16分18秒

⑥御船B / 1時間19分34秒 ⑦滝尾 / 1時間20分04秒

⑧木倉 / 1時間21分16秒 ※躍進賞/御船

▼区間賞(区間・距離・氏名・地区)

▽1区(1.5^{km}) / 西山文菜・御船A ▽2区(2.4^{km}) / 松永圭司・滝尾▽3区(1.2^{km}) / 横山由衣・御船A ▽4区(1.2^{km}) / 牛島良一・上野▽5区(2.6^{km}) / 倉内雅比古・小坂▽6区(1.5^{km}) / 東和希・七滝▽7区(1.5^{km}) / 米納美菜子・御船A / 8区(2.4^{km}) / 梶本龍之介・小坂▽9区(2.4^{km}) / 梶本賢一郎・小坂▽10区(4.1^{km}) / 大場祐哉・小坂



写真上 / 一斉にスタートして、元気よく走り出す1区の選手たち(小学生女子)

写真中 / 親子でたすきをつないだ小坂地区・梶本龍之介選手(18・左)と、梶本賢一郎選手(43・右)。親子揃っての区間賞も獲得

写真下 / 優勝のゴールテープを切る御船地区A・永戸大也選手(24)

天草～熊本路を上益城郡V2

都市対抗熊日駅伝

2月14日、第36回都市対抗熊日駅伝が天草市役所前をスタートに熊本市の熊日びぶれす前をゴールとした14区間105.3^{km}で行われ、上益城郡チームが2年連続3回目の優勝を飾りました。県内で最高峰の駅伝には、都市19チーム266人のトップランナーが出場。御船町からも選手3人が上益城郡代表として出場、優勝の大きな原動力となりました。レースでは、序盤から上位争いを演じる上益城郡。しかし、トップを走る菊池都市との差は一時2分40秒まで広がられます。「(自分が)流れを変えたかった。調子もよかったので前半から飛ばしました」と振り返る、8区・大場祐哉選手(NECSKY)。4位でたすきを受けると、3^{km}と7^{km}付近で2チームを抜き去る力走で2位へと順位を押し上げます。ここで完全にリズムを掴んだ上益城郡は、9区・栗田嶺選手(甲佐町・熊工2年)が先頭の菊池都市をとらえて、1位でたすきをつなぎます。13区・高橋満選手(御船中3年)は、「2位とは2分以上の差で、自分のペースで走れば大丈夫と思った。沿道からの声援も心強かったです」と話し、安定した走りですぐ14区・山下直樹選手(御船町役場)へとたすきリレー。同駅伝21回の出場を誇り経験豊富な山下選手は豪快な走りですぐ2位以下を全く寄せつけずトップでゴールし、上益城郡は初となる2連覇の栄冠を手に入れました。なお、大会成績は次のとおりです(敬称略)。

▼上位チームの記録(都市名・時間・前回順位)

①上益城郡 / 5時間25分02秒①

②天草市 / 5時間27分19秒③

③菊池都市 / 5時間27分26秒②

▼御船町選手の記録(出走区・氏名・住所・時間・区間順位)

▽8区(10.2^{km}) / 大場祐哉・小坂・31分14秒①

▽13区(4.7^{km}) / 高橋満・滝川・14分45秒⑦

▽14区(8.3^{km}) / 山下直樹・辺田見・26分14秒③



写真左 / 沿道の大応援に迎えられ、高々と両腕を上げて、V2を示す会心のポーズで優勝のゴールテープを切る山下直樹選手

写真下 / 二連覇を達成した上益城郡チーム。松本圭司選手(補員・御船中3年)=前列右1番目、山下直樹選手=二列目右2番目、高橋満選手=後列右2番目、大場祐哉選手=同6番目(共に甲佐町教育委員会提供)



きょうはうれしいひなまつり

若葉保育園ひなまつり会

ひなまつり会が3月3日、若葉保育園(江原澄恵園長、134人)で行なわれ、園児と木倉老人会(伊藤誠一会長、31人)が交流しました。同老人会との交流は毎年1回行われており、地域のお年寄りとの交流が目的。会場には園児手作りのひな人形が飾られ華やかな雰囲気の中、園児からの歌や遊戯の披露。参加者からは大きな拍手が送られていました。参加した同老人会の伊藤会長(木倉)は「毎年楽しみにしています、ひ孫のような存在でかわいいですね」と話されました。



老人会の皆さんとふれあいあそびをする年長児



提案に対して質問する参加者

歩いてみたいそんな町へ

くまもとまち育て塾(最終回)

まちづくりに必要な人材育成を目的に昨年9月から6回にわたって開催された「くまもとまち育て塾」(県主催)が2月21日、カルチャーセンターで行われました。塾生たちがまとめた「まちづくり提案書」を班ごとに発表。本町通り商店街の活性化、みふね人発掘などを狙った町並みミュージアムなど、多数の提案に、塾長の愛知産業大学大学院教授の延藤安弘氏は「地域レベルで実践できる可能性の高い提案で今後のまちづくりへ生かしてほしい」と講評を述べました。